

# 令和5年度 保健・体育科 研究のまとめ

栗原良典・梅本尚武・原田 央

## 1. 研究会等で明らかになった教科等の資質能力の具体

### (1) 小学校体育科 2年「ボール投げゲーム てるてるボール」

資質能力	児童・生徒の姿	手立て	キーワード
授業構想力	ゲーム中に、どの児童もボールをキャッチしようと意欲的に取り組んでいる姿。	児童の発達段階に丁度よいコート of 広さや恐怖心を払拭したボールの選定を行う。	発達段階, 教材開発, 児童観
授業実践力	課題発見をスムーズに行い、探求する活動に時間をかけている姿。	視聴覚機器を用いて課題を提示することで、動的に児童一人一人が課題を把握できるようにする。	マネジメント, 課題発見
授業分析・評価力	友達のよい動きを見て、自分の動きに繋げようとする姿。	児童がそれぞれの時間に目指しているめあてを意識し、取り組もうとしている姿を取り上げ、全体に共有する。	教師が児童をみる視点, 立ち位置, 評価するタイミング

### (2) 小学校体育科 3年「ゲーム (ゴール型) インベーター」

資質能力	児童・生徒の姿	手立て	キーワード
授業構想力	めあてとなる動き方のコツを共有しながら関わり合うとともに、動き方のイメージをもって運動に取り組む姿。	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題把握後に簡単な場で身に付けたい動きを体験し、段階的にゲームの様相を設定する。</li> <li>兄弟チームでプレイ後の振り返りを行い、学習者が自身の動きを見直せるようにする。</li> </ul>	目的の明確化、学習のつながり、問題解決への支援 関わりへの支援、思考の表出
授業実践力	動きの質的な変化や運動者の意図についての評価を、児童相互が見合い、伝え合い振り返り、思考を深めていく姿。	得点の成否でなく、プレイの内容に対するフィードバックを即時的に本人に行うとともに、周囲の観察者に問いかけ運動を観察する視点を育成する。	フィードバック、視点の明確化、見方や考え方を広げる、思考の深まりへの支援、価値の捉え直し
授業分析・評価力	多様な運動能力の段階にある児童においても、それぞれに	・目標は共有しながらも、場面や個人の実態それぞれに応じ	課題の整理、安心感、個に応じた支援

	合った戦術を選びながらプレイするとともに、相互に認め合いながら運動に取り組む姿。	た学習課題があることを全体で確認するとともに、個に応じた声かけを行う。 ・結果への振り返りでなく、プレイの意図を理解し認めたり、次の改善に繋がる具体を考えたりしている児童の関わりを認め、全体で取り上げ共有する。	教師の価値付け、気付きを促す支援、表現を深めるための支援、安心感
--	--	--	----------------------------------

(3) 中学校保健・体育科 3年「陸上競技 ハードル走」

資質能力	児童・生徒の姿	手立て	キーワード
授業構想力	○効率の良い動きを模索する姿がみられた ●運動量的にもう少し動きたかった生徒もいた	グループで動きを見合う活動にしたことで思考を深められる場面を作ることができた。	具体を考える 場の設定
授業実践力	○1人で走るだけでなく、グループの仲間とかかわりあいながら活動できた	iPadの活用法として、グループに1台のみ使用を認めたので自然とかかわりあう関係性を作ることができた	考えるための支援 意見の共有
授業分析・評価力	○自分の動きだけでなく、仲間や手本などを参考にして走り方を工夫していた	「スピードを落とさずにハードルを跳ぶ」「50m走のタイムに近づける」という目標を常に意識させる言葉かけを行う	フィードバック 課題の整理

## 2. 研究についての考察

今年度の研究から、保健体育科本来の魅力に迫るための教師の資質能力を表1のように再検討した。

表1 保健・体育科本来の魅力に迫るための教師の資質能力

資質能力	保健・体育科が考える「教師の資質能力」の具体
授業構想力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者の実態を多面的（興味・関心等の情意的側面，身体能力・運動経験・既習の有無等の運動的側面，わざへの知的な理解・思考力等の認識的側面，他者との関わり方等の社会的側面）に把握する力</li> <li>・運動教材のもつ本質的意義を捉え，学習者の主体的条件や指導の時間的・物理的条件（教具の有無，場の広さ等）に応じて，発達適格的につくりかえ具体化する力</li> <li>・学習内容の抽出・選択（何を教えるのか），教材・教具の構成（何で教えるのか），学習の展開に関する検討（単元計画，発問，学習形態の選択等，どのように教えるのか）を行う力</li> </ul>
授業実践力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・端的で的確なマネジメントを行うとともに，学びを深めるための課題発見・探求の機会を保障する力</li> <li>・活動の様子から学習者の実態を把握し，肯定的な動機付けや賞賛，技能の向上に寄与する技能的・矯正的フィードバック等を行う力</li> <li>・学習課題を焦点化したり，内容を深めたりするための発問を研ぐ力</li> </ul>
授業分析・評価力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の学習成果を多面的・多角的に見取る力</li> <li>・児童同士の関わりや運動に対する思考を認め，全体で取り上げ共有する力</li> <li>・教師行動の内容や割合を学習者の姿と結び付けながら省察し，改善していく力</li> </ul>

本研究を通じた成果と課題は、次のように考える。

成 果	課 題
<p>・今年度は，昨年度の研究の課題を受け，教師の「授業実践力」と「授業分析・評価力」に焦点を当てて研究を進めてきた。その中で，児童が学習課題に向けて，より良く取り組んでいくために発問を精選（研ぐ）する力や，運動場面で思考のつまづきに対し，絶好のタイミングで全体共有の時間を確保する力等が教師の資質能力として必要となることを明らかにすることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度重点的に取り組んだ「授業実践力」と「授業分析力」に関して，様々な運動領域に広げてより深く研究していく必要があると考える。</li> <li>・「個別最適な学び」「協働的な学び」を行うことで，保健体育科の魅力にどこまで迫ることができるのかを明らかにしていきたい。</li> </ul>